

## ②航空機の運航

### ア)航空機の運航による騒音

予測の対象とした種は、「②建設機械の稼働」と同じズグロミゾゴイ、リュウキュウツミ、キンバト、シロチドリ、コアジサシ、エリグロアジサシの6種である。

これらの鳥類の繁殖地点におけるピーク騒音レベル（航空機の離発着時における1便当たりの騒音レベルdB(A)）は表-6.9.2(12)、図-6.9.2(38)、図-6.9.2(39)に示すとおりである。なお、供用後は北風での離発着が8割（北北東方向からの離発着）、南風での離発着は2割（南南西方向からの離発着）となる予定である。

工事中の「②建設機械の稼働」の項で記載したとおり、個体に届く音圧が60dB以上の場合、注意した方が無難であると考えられるが、リュウキュウツミについては8地点のうち4地点（タキ山東及びキツヌングスクの地点番号5、6、7、8）は、どの方向の離発着時にも60dB(A)を超えることから、この4地点については繁殖率が低下し営巣場所としての利用価値が下がるおそれがある。ただし、本種の営巣環境は平地及び山地の林内や、植林及び公園などの樹林地内であることが知られているが、周辺にタキ山、カタフタ山、水岳などのまとまった樹林地が残存し(p6-9-91~100、「ア)植生環境の変化」を参照)、調査でもこれらの樹林地での営巣が確認されており(地点番号1、2、3、4)、営巣地として利用可能な環境は周辺に残されることから、事業実施区域周辺の個体群は存続できるものと予測される。

ズグロミゾゴイについては8地点のうち2地点について60dB(A)を超過する可能性があるが、地形条件を考慮すると、生息状況の変化は極めて小さいものと予測される。

キンバトについては60dB(A)を超過することはないことから生息状況の変化はないものと考えられる。

シロチドリについては、9地点のうち、事業実施区域北側の1地点で90dB(A)を超える場合があり、この地点は繁殖地として利用されなくなるおそれがある。ただし、当該地点は偽傷行動が確認された場所であり集団繁殖地ではないこと、白保海域周辺で同種の繁殖行動を多数確認していることなどから、事業実施区域周辺の個体群の存続及び種の保存はできるものと考えられる。

コアジサシについては、9地点のうち、事業実施区域北側の1地点で90dB(A)を超える場合があり、この地点は繁殖地として利用されなくなるおそれがある。ただし、当該地点はカラスへの威嚇行動が確認された場所であり、集団繁殖地ではないこと、白保海域周辺で同種の繁殖行動を確認していることなどから、事業実施区域周辺の個体群の存続及び種の保存はできるものと考えられる。

エリグロアジサシについては60dB(A)を超過する可能性があるが、当該地点は滑走路中心から約1.5Km以上離れた海上の小島上の1巣と成鳥の警戒行動や求愛給餌が確認された場所であり、集団繁殖地ではないものと考えられることや、発生頻度も低いことから生息状況の変化はないものと予測される。